

整理番号	リンダL & Wアドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	リンダL & Wアドバンス 18K/QB
製品コード	3220
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	浅野克明
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	タイヤ、ビニールレザー、ダッシュボード等の保護つや出し
作成日	2005年12月1日
改正日	2016年5月27日
整理番号	3220-06

2. 危険有害性の要約

GHS分類

水生環境有害性 (急性)

区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル

なし

注意喚起語

なし

危険有害性情報

水生生物に有害

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別
・ 混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
シリコーンオイル	非公開	非公開	非公開
非イオン系界面活性剤	非公開	非公開	非公開
ジエタノールアミン	0.1~0.9	111-42-2	(2)-302

整理番号	リンダL & Wアドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通ずべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
219	ジエタノールアミン	0.1～0.9%

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・毒性・刺激性はほとんどないが、液が付着した場合は、下記のような処置を行う。
- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・衣服等に付着した場合は脱いで、皮膚に付着した部分を石鹼でよく洗うこと。

目に入った場合

- ・直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄すること。
- ・眼の刺激が続く場合は医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

整理番号	リンダ L & W アドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

5. 火災時の措置

消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

整理番号	リンダL & Wアドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

安全な容器包装材料

- ・特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
シリコーンオイル	-	-
非イオン系界面活性剤	-	-
ジエタノールアミン	-	ACGIH(2006) TLV-TWA 2mg/m3(皮)

保護具

呼吸器の保護具

- ・必要に応じて保護マスク等を着用する。

手の保護具

- ・必要に応じて保護手袋を着用する。

目の保護具

- ・必要に応じて保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・必要に応じて保護衣、保護前掛け等を着用する。

整理番号	リンダ L & W アドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 乳白色液体
臭い	: 原料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 8.5
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 0.99
溶解性	: 水に分散
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度(粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・ 通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・ 特になし

避けるべき条件

- ・ 特になし

混触危険性物質

- ・ 特になし

危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

その他

- ・ 特になし

整理番号	リンダL & Wアドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

1 1. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ シリコーンオイル

《急性毒性》

経口：経口 LD50 ラット：> 5 g/kg (類似のジメチルポリシロキサンより推定)

《皮膚腐食性/刺激性》

刺激性なし(ウサギ)(類似のジメチルポリシロキサンより推定)。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

刺激性なし(ウサギ)(類似のジメチルポリシロキサンより推定)

《発がん性》

発がん性なし(類似のジメチルポリシロキサンより推定)

《生殖細胞変異原性》

陰性(微生物)(類似のジメチルポリシロキサンより推定)

・ 非イオン系界面活性剤

《急性毒性》

経口：LD50>2000m/kg

経皮：LD50>2000m/kg

吸入：データなし

(日本界面活性剤工業会提供データより推定)

《皮膚腐食性/刺激性》

区分2(日本界面活性剤工業会提供データ類似品より推定)

《眼に対する重篤な損傷性/刺激性》

区分1(日本界面活性剤工業会提供データ類似品より推定)

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：データなし。

皮膚感作性：区分外(日本界面活性剤工業会提供データ類似品より推定)

《発がん性》

区分外(日本界面活性剤工業会提供データ類似品より推定)

IARC：リストアップされていない

日本産業衛生学会：リストアップされていない

《生殖細胞変異原性》

区分外(日本界面活性剤工業会提供データ類似品より推定)

《生殖毒性》

区分外(日本界面活性剤工業会提供データ類似品より推定)

《標的臓器/全身毒性(単回暴露)》

データなし

《標的臓器/全身毒性(反復暴露)》

データなし

《吸引性呼吸器有害性》

データなし

・ ジェタノールアミン

《急性毒性》

経口：ラットのLD50値4データ(ACGIH (2001), PATTY (5th, 2001))から、技術指針による計算で得られたLD50=1613mg/kgに基づき、区分4とした。

経皮：ウサギのLD50値3データから、技術指針による計算で得られたLD50=8810.5mg/kgに基づき、区分外とした。

吸入(ガス)：GHSの定義による固体である。

吸入(蒸気)：データなし。

吸入(粉じん、ミスト)：本物質の飽和蒸気圧濃度は0.37ppmである。飽和蒸気圧濃度での2つのラット急性毒性試験(IUCLID (2000))では死亡が見られず、LC50値が求められていないので分類できない。

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギで刺激性の程度は重度から軽度まで幅があるものの皮膚刺激性が認められており(ACGIH (2001), PATTY (5th, 2001)), ヒトにおいては軽度から中等度の刺激性の記載がある(HSDB (2005))こと、およびEUでR38に分類されていることに基づき、区分2とした。

整理番号	リンダL & Wアドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11. 08

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》

ウサギで重度の刺激性が記載され(ACGIH (2001), PATTY (5th, 2001)), ヒトでは発赤, 痛み, 重度の熱傷および腐食性を示すとの記載(ICSC (J) (2002))があり, EUでR41に分類されていることに基づき, 区分1とした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データ無し。

皮膚感作性: モルモットの2試験(そのうちの1試験はOECD試験ガイドライン406に基づく試験)において, 皮膚感作性が認められなかった(ACGIH (2001), IUCLID (2000)) こと, およびヒトにおける2つのパッチテストにおいて皮膚感作性が認められなかったとの記載(IUCLID (2000))に基づき, 区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

in vitro 変異原性試験での陰性の結果以外にデータがないため, 技術指針に従い分類できないとした。

《発ガン性》

IARCで3に分類している(IARC (2000)) ことに基づき, 区分外とした。

《生殖毒性》

いずれの動物試験も明確な生殖毒性が見られないが, 投与期間が分かっている試験は全て器官形成期の投与であり, 他の投与時期の試験がないため, データ不足で分類できない。

《標的臓器／全身毒性(単回暴露)》

ラットの経口投与試験で, 区分1のガイダンス値範囲内の投与量で, 麻酔作用(鎮静作用, 運動失調)および肝障害(重量増加, 血清トランスアミナーゼおよびその他の肝臓酵素の増加, 混濁腫脹と空胞変性, 小胞体とミトコンドリアの損傷)が見られたとの記載(ACGIH (2001))に基づき, 区分1(肝臓), 区分3(麻酔作用)とした。

《標的臓器／全身毒性(反復暴露)》

ラットで区分2のガイダンス値範囲内の用量で肝臓および腎臓の重量増加と腎症が記載され(PATTY (5th, 2001), ACGIH (2001)), 赤血球数, ヘモグロビン濃度, ヘマトクリット値の減少など貧血を示すデータおよび脳, 脊髄の脱髄が記載されている(ACGIH (2001))。ヒトでは肝臓および腎臓に影響を及ぼすことが記載されている(ICSC (J) (2002))。以上の情報に基づき, 区分2(肝臓, 腎臓, 血液, 中枢神経系)とした。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし。

1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報: 記載の無いものは, GHS分類でカットオフ値以下であるもの, 知見なし, あるいはデータなしの成分

・ シリコンオイル

《水性環境有害性》(慢性)

残留性/分解性乾燥土壤中分解される可能性あり。(類似のジメチルポリシロキサンより推定)

生体蓄積性: 蓄積性なし(類似のジメチルポリシロキサンより推定)

・ 非イオン系界面活性剤

生態毒性: 区分1 (類似品=LC50 0.73mg/L)

残留性/分解性: 生分解性良好; BOD, CODデータより

生体蓄積性: データなし

土壤中の移動度: データなし

その他のデータ: BOD 280mg/L, COD 150mg/L(0.1%水溶液)

・ ジエタノールアミン

《水生環境有害性(急性)》

甲殻類(ミジンコ)の48時間LC50=2150 μg/L(AQUIRE, 2003)から, 区分2とした。

《水生環境有害性(慢性)》

急速分解性があり(TOCによる分解度: 96.7%(既存化学物質安全性点検データ)), かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=-1.43(PHYSPROP Database, 2005))ことから, 区分外とした。

オゾン層への有害性: データなし

整理番号	リンダL & Wアドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

1 3. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

該当しない

国連番号

該当しない

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 非該当

国内規制：

容器イエローラベル

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時には、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

1 5. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法： () 内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)：

非該当(該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法：

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)：

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物)：

非該当

特定化学物質障害予防規則： 非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法)：

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

整理番号	リンダL & Wアドバンス 18K/QB	作成日	2005年12月1日
3220-06	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年5月27日

Ver. 11.08

16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。